『中国地区英語教育学会研究紀要』No.22 (1992.10.1)
〈第17回全国英語教育学会自由研究発表〉

授業研究データベース作成の試み

山口大学教育学部　深　沢　清　治

1　はじめに

英語教育の科学化の中で、英語授業という最も個人的な営みに対しても、授業分析を通した実践の理論化が進んでいる。ところが、授業研究の素材としての数多くの貴重な授業記録は、いったん検討の場が終われば、そのまま顧みられないことが多く、教師個人あるいは共同で、比較授業研究などで利用されることは少ない。その原因として、授業研究のありかたが、各種の研究会での単発的な検討・評価に終始していることが考えられる。そのほかにも、研究を目的とした授業記録ビデオなどの整理が行われていないことにも一因があると思われる。そこで、授業研究の事前段階として、ビデオ記録を中心とした授業資料のラベル化により授業記録を整理し、授業関連情報の保管・更新を行いながら、授業改善あるいは授業研究のための共有化に資することは、有益なことであろう。本研究では、英語授業研究に役立てるため、一単位時間の英語授業記録を教授者、教材、言語材料、題材、指導過程の特徴など、様々な角度からパソコンにより検索できるような授業記録のデータベース化を提案し、その可能性について考察する。

2　英語授業研究のためのデータベース（ Classroom Research Database ）

（1）教育情報データベースとしての授業記録

パソコンを利用して、いろいろな情報を保管、整理、更新などに便利なように整理した情報ファイルはデータベースと呼ばれ、現在、様々な分野で英語教育の研究、実践を支援している。英語教育に関する情報バンクを英語教育情報データベースと名づけると、そこには次のようなものが含まれるであろう。

- 英語教育情報データベース
  - 英語教育文献データベース
  - 英語教科書データベース
  - 英語教材データベース
  - ・・・
  - 英語授業研究データベース

このうち、文献、教材、用例データベースなどが一般的であるが、われわれの所有している授業ビデオ記録もデータベース化することによって、従来のような、「記憶としての授業」から、活用することを考慮した「記録としての授業」へと変えていくことができる。授業記録の収集に関して、各大学附属学校、教育実習センター、最近では教育実践研究指導センターなどにおいて研究授業のビデオテープの集積などが行なわれている。大規模なものとして、愛知教育大学教科教育センター(1986)から、『授業記録目録』（第Ⅱ分冊）として、昭和４９年以降、幼稚園から

高等学校に至る１１，１０７点に及ぶ授業記録のリスト（英語授業記録は１５７点）が作成、刊行されている。それぞれの授業記録には９桁の番号により、①学校種別、②学年、③教科、④教科別通し番号、⑤年度、の５つの目録番号細目が付されている。このような貴重な授業資料を今後、授業研究、授業改善へと活用していくためには、単なるリストだけでなく、授業内容に関わる項目別に検索ができるようなシステムが必要となる。

こうしたニーズに応えるものとして、南部（1990）は小学校での授業録画ビデオテープと授業記録、使用教材から構成される授業記録ライブラリーを構築し、その検索に必要な二次情報を管理するための授業記録管理検索システムを開発している。１９８９年７月現在、１，６２０件が収集され、教育情報ネットワークシステム、およびパソコン通信ネットワークシステムに登録され、利用に供しているという。このような観点を利用しながら、今後、各教科別に単元・題材、授業の目標、授業の形態、など授業内容の通教科的共通コア項目と、目標言語・文化材料、指導技術、使用言語など、英語授業特有のローカル項目から、授業記録の情報検索を可能にしていく必要がある。

（２）英語授業記録ライブラリー作成の意義

授業記録ライブラリーの最も一般的な活用方法は、教育実習生に対する視聴・閲覧用に提供することや、教育実習事前・事後指導の素材として使用することであろう。教育実習を前後して、実習生の授業観は大きく変化する。その多くは英語授業実践能力の育成に対する要望となる。こうした希望に対応するため、例えば、教育実習開始前の教科教育法の授業において、英語授業の各指導過程の特徴や指導技術について理解させたり、そのためのビデオ教材開発を目指したり、実習生の自主視聴の機会を提供することができる。また、実習授業後の批評会や事後指導においてフィードバックを与える必要がある際も、ビデオ記録による指導は有効である。授業は注意深く観察しても瞬時に消え去る行動の連続体であり、記憶やリアルタイムにおいての授業メモだけでは、十分な授業事後検討は困難である。英語教育を取り巻くハードウエアの進歩に比べ、ソフト・ウエアの整備・充実が求められており、貴重なソフト・ウエアとしての授業記録も簡単に利用できる形で、保存・整理のためのライブラリー化を行う必要があろう。このような客観的記録資料を将来、様々な視点・角度からの分析のために蓄積することは、教育実習の改善などに資するものと考えられる。

授業記録ライブラリーが、大きなネットで行なわれなかったのにはいくつかの理由が考えられる。まず、附属学校での教育実習や、研究授業でのビデオ録画授業は、検討の対象とする以前に授業者および学習者、学校のプライバシーの問題が存在することから、活用へと踏み切れなかったのが現状であろう。また、これまでの授業研究のあり方にも、その理由の一端があると思われる。研究授業での授業後の批評会を目的とした、プロダクト重視の授業観からは、英語授業で何を教える「べき」という評価の視点が全面に出たものとなり、検討の場が終れば、収録された授業は使用済みとなり、顧みられることは少ない。これに対して、教育現場での授業実践を対象として、授業を観察し、授業過程における一連の教授・学習行為を分析的に把握させ、どのような授業が行われて「いる（きた）」か記述することを目的としたプロセス重視の授業観に立てば、まず、多くの授業記録を体系的に蓄積し、研究素材としての授業記録を、共時的、通時的に様々な角度から検索、利用できるようにライブラリー化することが必要である。今後、大学における教師教育の段階から現職教員研修に至るまで、教師としての英語授業実践力を養成するために、実際の授業行動記録資料が不可欠であり、教師教育を受ける側と行なう側の共有財産として、英語教育情報流通システムの開発を急がねばならない。

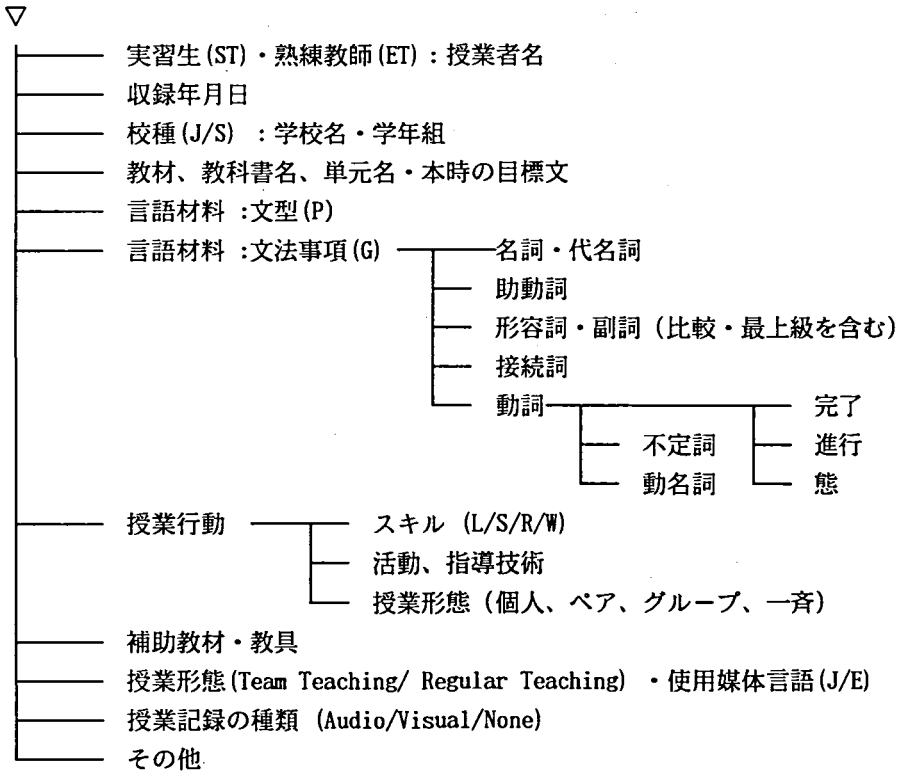
3　授業研究データベースの作成・利用例

（１）授業研究のための情報検索の視点

英語授業研究ライブラリーは、ビデオによる映像記録を中心としている。ビデオは、記録、反復、再生の簡便性に優れているためである。そして、各授業記録の二次情報を整理し、データベースで検索するためには、記録の日時・場所、授業内容、記録の方法、の観点から、少なくとも次の１０の視点が必要であろう。なお、授業に対する客観的情報の整理を目的としているため、評価コメントは検索の視点としては、最低限のものを考えている。

授業記録の分類カテゴリー

0	分類番号	
1	授業者（教育実習生・熟練教師）	深沢清治 / Stuart Rauch
2	授業記録年月日	90/11/01
3	授業場所・学校名・学年組	S:　佐賀県立Ａ高校１年３組
4	教材（教科書）・単元名	"Time Capsule"（投げ入れ教材）
5	言語材料（文型・文法事項）	"If ..., I will ...."（条件文）
6	スキル別特徴的授業行動　1　(L/S)	S: interview - pair
	〃　2　(R/W)	W: guided composition - group
7	補助教材・教具	OHP
8	授業形態・使用媒体言語	Team Teaching: English
9	授業記録の種類(Audio/Visual/None)	V: VHS
１０	その他（印象、特筆すべき活動）	



（２）授業研究データベースの作成と利用例

現在、教育実習や研究会での授業ビデオ記録や、市販のモデル授業について分類項目別に入力中であるが、例えば、①教育実習生の英語授業、②リスニングによるＱ＆Ａ、を見ることにより実習生の発問の特徴について比較、分析したい場合は、次のような授業記録が検索できる。

1　ST: KOBAYASHI JUNKO (小林順子)
84/10/19　J：東京大学教育学部附属中学校３年
NP 3, LES. 3, "We call the girl Emi"
P: S + V + O + C　G: VERB-PRESENT (call)
LISTENING: Q&A　ORAL INTRODUCTION　SPEAKING: PATTERN PRACTICE
READING: READ ALOUD, Q&A　WRITING: ORAL COMPOSITION
FLASH CARDS, PICTURE CARDS, TAPE RECORDER
REGULAR TEACHING: J(APANESE)
V:　(放送教育開発センター　教師教育ビデオ　1986)

2　ST: OKU MASAHIRO (奥　雅博)
86/10/24　J：山口大学附属山口中学校１年
TE 1, LES. 13, "There is a desk in my room"
P: There is/are ～　G: VERB-PRESENT, NOUN SINGULAR/PLURAL
L: Q&A　S: PATTERN PRACTICE
R: READ ALOUD
FLASH CARDS, OHP, PICTURE CARDS
REGULAR TEACHING: J
V:VHS

(以下１１件省略)

４　おわりに

本論で述べた授業記録ライブラリーの充実により、大学での一連の教師教育において、教育実習への事前準備段階においては、教案作成、授業実践、評価を補助するために実習生が自主的に活用できるような、あるいは、事後指導において活用できるような用途が考えられる。今後に残された課題として、データベースによる検索のための視点の整理として特に指導技術の分類項目を設定すること、個人レベルからネットワーク化により実践・研究間の情報交換・協力体制を確立すること、授業記録の蓄積に伴って今後どのように利用に供していくのかを検討すること、ビデオによる授業記録の限界として、見たい授業場面への瞬時のアクセスに困難点があるため、見たい部分が即時取り出し可能なハード面がさらに充実すること、がある。

【参　考　文　献】

愛知教育大学教科教育センター『授業記録目録』（第Ⅱ分冊），1986.
南部昌敏「授業記録ライブラリーの構築と管理システムの開発 (1)」『上越教育大学研究紀要』第10巻，第１号，1990，99-110.